



令和7年度 1月号 川口市立辻小学校

令和8年1月8日

# 辻小学校だより

学校教育目標

○学ぶ子（知）

○やさしい子（徳）

○元気な子（体）



人との関わりでコミュニケーション力を育成する



～新しい年を迎え、子供たちに身に付けさせたい力とは～

校長 近藤 百合

令和8年のスタートです。令和8年の「午年（うまどし）」は十二支の7番目です。「馬」は古来より「力強さ」「躍動」「成功」「開運」の象徴とされ、神様の使いや縁起の良い動物として尊ばれており、事業の発展や努力が実を結ぶ年とされています。令和8年は60年に1度の「丙午（ひのえうま）」。「十干（じっかん）」の「丙（ひ）」と「午（うま）」が組み合わせ、情熱的で明るく、新しい挑戦に光が差し込む年とされます。そして「午年」に生まれた人は、明るく社交的で、人を引き付ける魅力があり、前向きでエネルギー、何事にも積極的に取り組む性格を持つといわれています。

「巳年」で努力を重ねることにより、物事が安定して、さらに良い年になっていき、「午年」ではその努力が実を結ぶ年になるといえます。

今年の2月には冬季オリンピックが開催されます。オリンピックでは4年間努力を積み重ねた選手たちがその努力が実を結ぶように全力で競技に取り組みます。そのような姿が見られることがオリンピックの醍醐味といえます。子供たちにも努力したことが実を結ぶ一年であるように願ってやみません。

さて、最近の子供たちは人とのコミュニケーションが上手に取れないことが課題と言われています。学校生活の中でもコミュニケーションの取り方を間違えて、様々なトラブルを引き起こすケースが見られます。子供の中には自分の伝えたいことがうまく伝えられず、イライラして、周囲にイライラをぶつけてしまう…という場面も見られます。学校はその都度、子供たちが何を伝えなかったのかをしっかりと聞き取るようにしていますが、一対一であっても自分の思いを上手く伝えられないこともあります。

子供たちの様子を見てみると、言葉より行動が先に出てしまうことがあります。また、言葉も単語で発することがとても多く、相手にしっかり伝えられていないことも多くみられます。

子供たちにとって自分をよく知る人であれば、単語でのコミュニケーションでも自分の思いが伝わることもあります。家族であれば、その子の様子を見て、「きっとこんなことがいいいのだろう」と予想もしやすいでしょう。けれども家族以外の人、特に友達や自分の性格をよくわかっていない大人に単語で発した言葉はうまく伝わるはずがありません。また、イライラしている相手に向かって「うざい」「きもい」「死ぬ」などの言葉を発すれば、友達とトラブルになりかねません。相手の気持ちを考えた言葉を身に付けさせることは、子供たちにとってコミュニケーションの第一歩といえます。

辻小学校では国語科を中心として「伝え合い」をテーマに校内での研修を行っています。この「伝え合い」を通し、コミュニケーション力の育成を行っていかれたらと思っています。しかしながら学校だけではコミュニケーション力は身に付きません。様々な人との関わりを地域という社会の中で子供たちに経験させ、相手を意識した「上手なコミュニケーション」の取り方を学ばせていくことが大人の役割と考えます。せっかくの冬休み。地域行事に参加させるなどして子供たちのコミュニケーション力を育成していきましょう。

辻小学校のホームページを是非、ご覧ください。

学校の教育活動等随時、更新しております。「辻小学校」で検索いただくか、右のQRコードからも、閲覧することができます。

子供たちの日常的な学習の様子もご覧ください。

学校ホームページ <http://tujisyou.official.jp/>

